

松浦一 まつら いち 文藝評論家。明治十四年一月、二十五日東京生れ、昭和
四十一年八月十二日歿（二八八一—一九六六）。號一如。明治二十八年東京帝
國大學文科大學英文科卒。大正十五年大正大學、のち駒澤大學、中央
大學教授歴任。

譯著書、下田敏子著『皇國不孝—A JAPANESE POETESS』（内題「皇國
ぶり」）アーサーロイド共譯、明治四十年六月一日春陽堂、コトルマ
トイの藝術觀』（明治四十五年二月二十一日法道館）、『文學の絶對
境』（大正十一年七月、二十六日大日本圖書株式会社）、『魂の故郷』
（大正十四年一月、二十九日イデア書院）、『文藝の彼岸』（昭和二年
七月十五日大東出版社）、『生き行く力としての文學』（昭和七年ハ
月十五日大東出版社）、『學生と藝術』（合著・河合榮治郎編、昭和
十五年十一月、二十一日日本評論社）、『文學のいづみ』（昭和二十四
年二月一日ツサギ書房）、『生命の商路』カタル（昭和二十年五月五日學藝
書房）、歌集『素月抄』（昭和二十七年二月二十五日新樹社）等。

